

Doc.No : NR041116

2004年11月16日

## フランス美術館修復研究センターにカラスキャナーを寄贈 ～ルーブル美術館所蔵品のデジタルアーカイブスに協力～

大日本スクリーン製造株式会社(本社：京都市上京区／社長：石田 明)はこのたび、デジタルアーカイブス<sup>※1</sup>を推進する活動の一環として、フランスのC2RMF<sup>※2</sup>に当社製カラスキャナー「ジェナスキャン5500(Cézanne Elite)」を寄贈します。

デジタルアーカイブスにおいて先端を行くフランスでは、国家的事業として美術品を修復し、その価値を保っています。これらを担うC2RMFは、フランス国内だけにとどまらず、世界規模で積極的な活動を展開しています。

今回の寄贈は、当社の長年にわたる印刷関連機器メーカーとしての実績と、大型カラスキャナーを使用した日本国内における歴史的な文化財のデジタルアーカイブス技術がC2RMFから高く評価され、また、当社が文化活動において協力している財団法人 京都国際文化交流財団<sup>※3</sup>からの要請を受け、実現したものです。当カラスキャナーは、現在までにC2RMFが撮影した美術品などのフィルムをデジタルデータとして保管するために使用され、ルーブル美術館をはじめフランスが所蔵する美術品のデジタルアーカイブスに貢献します。

当社は、これを機に今後もフランスとの交流を図り、情報交換を行うことでデジタルアーカイブス技術の研究をさらに発展させたいと考えています。

※1 デジタルアーカイブス

有形・無形の貴重な歴史・文化資産を次世代へ正しく継承するために、これらをデジタル情報の形で保存、蓄積すること。

※2 C2RMF(Centre de recherche et de restauration des musées de France)

フランス美術館修復研究センター。フランス文化省美術館局直属の組織で、ルーブル美術館の上部団体。ルーブル美術館内にあり、ベルサイユ宮殿にも分室がある。(URL : <http://www.c2rmf.fr/>)

※3 財団法人 京都国際文化交流財団

京都に残された貴重な文化資産のデジタルアーカイブス活動を行い、それらの活動を元に海外との文化交流を担う。現在はC2RMFと技術およびコンテンツの相互交流を行い、日本におけるデジタルアーカイブスの推進と日仏の文化交流に力を注いでいる団体。(URL : <http://www.kyo-bunka.or.jp/>)